



学校だより  
ながや

令和6年 3月18日  
横浜市立永谷小学校  
校長 神田 敏之

「時には、意見が合わずイライラしたこともあったけれど、お互いが優しくかかると自然に仲が深まってサンクスフェスティバルを成功できた！」

校長 神田 敏之

これはサンクスフェスティバルのふりかえりです。サンクスフェスティバルは、1年生から6年生が交流するなかよし活動で、6年生に感謝の気持ちを伝える会です。5年生が中心になってみんなで準備を進めてきました。目標に向かって取り組む過程では、上の言葉のようにいろいろとあったことでしょう。意見をすり合わせながら取り組むことは「自分のリーダー」が発揮されている姿です。誰かが言う通りでよい、言われたことだけするという姿勢ではうまくいかず、うまくいかなかったときに自分で決めていないので他の人の責任にするという悪い循環になってしまいます。一人一人が自分のリーダーを発揮するという事は、結果を含めて自分の責任にできるということにつながります。

活動を進める中で「どのような力が身についたか」ということについて、次のような記述がありました。

- ・みんなをまとめていく力
- ・自分から取り組む力
- ・自分たちだけでなく、いろいろな学年に寄り添いながら、最善案を導き出す力
- ・自分の役割を理解して、みんなで物事を進める力

今の学校では、何を知っているかだけでなく、どんな力を身に付けたかに視点を当てています。後ほどお渡しするあゆみにもどんな力が身につけているかがわかるように記述を心がけました。子ども自身が身に付けた力を自覚し、次の場面でも発揮できるように支援をしていきます。

今回の活動でうれしく感じた6年生の姿もありました。

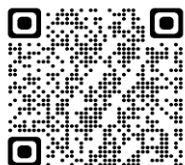
「6年生は主役なのに、私たちが『こうして』と言ったときにみんなが『?』となっていたときに、『こうするんだって』など最後まで支えてくれていたので、私も6年生になったときに、こういう6年生になりたいと思いました。」

自分たちがお客さんとして何もしないというのではなく、運営する5年生が困っているときにさりげなく助けている姿です。すばらしい力を身に付けていると思いました。

「4年生とは今度から学校を支える人になるという自覚をもってかかわれた。1～3年生も一つ上の学年に上がって、下の学年ができる、増えるという感覚が出てきているといいなと思った。みんなで協力して楽しめたのでよかったです。」

4月から自分たちがこの学校を支えていくのだという決意が見て取れます。今後は楽しみです。

保護者や地域の皆さんに支えられ年度末を迎えました。自分で考え、判断して、行動する子どもを育てるために、家庭、地域、学校が同じ姿勢で取り組んでいきましょう。ありがとうございました。



今年度は子どもたちの様子についてホームページも活用してお知らせします。月1回程度を予定していますので、「学校日記」等のページをご覧ください。